

アートとまちをつなぐ伊丹の

アイテム

誌面リニューアル!!
2009
冬
Vol.06

(財)伊丹市文化振興財団

TAKE FREE

連載

特集 伊丹で続くよ どこまでも

「まちなか美術手帖」
行き交う人々に波立つ彫刻

「クラフト作家の仕事場を訪ねて」
糸から紡ぐ究極のハンドメイド

「終演後の一軒」
100を超えるレトリトカラーと缶詰の壁

【舞台の裏側】
音色を
探求する職人

【芸は身を助く】
ストレスと体脂肪を
発散させたい

ニシキ
ガダン



舞台の裏側

華やかな舞台を支える巨大装置やハイテク、職人技…。
普段は見る事ができない裏側をお見せします。

音色を探求する職人

ピアノコンサートの開演前、暗い舞台上でピアノに
潜り込むような体勢で作業をする職人がいる。
彼こそが今回の主役、調律師だ。作業を注意深く
見る機会はないかもしれないが、調律師の腕
と耳に、その日のコンサートの出来映えがかかっ
ていると言っても過言ではない。

チューナーや音叉で基準となる周波数をはかり、
鍵盤の音を合わせるところから仕事が始まる。ピ
アノは生き物のように個性をもっており、気温や
湿度によっても随分と状況が違う。感覚を研ぎ澄
まし、鍵盤と鍵盤の間の音を埋めて、うまく共鳴
するようにチューニングハンマーをぐぐつと操り音
を変化させていく。

ピアニストの要求はとても詩的だ。ソムリエのよう
に「もっと膨らみのある温かい感じで」という言葉か
ら音をイメージする。応えるには「一台でも多く仕事
をこなし、個性あふれるピアノとピアニストに向き合い、
テクニクのバリエーションを増やすしかない。経験に
よって鍛えられた感覚の引き出しを多くするのだ。
ピアニストのフィーリングに寄り添わせて、音色
を創り上げていくこの作業こそが舞台裏の醍醐
味であろう。求められる音を完璧に創ることはで
きないかもしれないが、理想とする音色の実現に日々
精進あるのみだ。



【取材と文：榎田康行】事業企画課施設担当 「困ったら僕に聞け」舞台、音響、電気、パソコン…7つの施設の管理を一手に引き受けるメカニクマン。「異動でいたみホールからアイホールへ。引継ぎが膨大で翻弄されています」

伊丹市ふるさと寄附

と寄附を通じて、ふるさと伊丹を応援してください

伊丹市では「夢と魅力のあるまち伊丹」の実現に向け、様々な施策に取り組んでいます。
寄附金の活用は「芸術・文化」「スポーツ」など10テーマからご指定いただけます。

【お問合せ】伊丹市総合政策部政策室 TEL.072-784-8007 <http://www.city.itami.lg.jp/furusaito.html>



五代続く
芸を観る

20年以上、米朝一門会を開催する伊丹では、桂米朝さんの師匠名である五代目米團治を小米朝さんが継ぐ話題は他人事ではない。古典落語のみならずオペラと落語の融合「らくごべら」を確立してきた五代目米團治さん。いかなる挑戦に試みるか、期待はふくらむ。

「五代目桂米團治襲名記念 いたみ寄席「桂米朝一門会」1/14(水)18:30。完売。当日券の販売はございません。☎072-778-8788(いたみホール)



※伊丹市立博物館蔵(明治時代)

市立博物館、柿衛文庫、文化財保存協会が所蔵する、明治から昭和までのひなざりを重要文化財の酒蔵で展示する。時代ごとに異なる飾りつけや表情、素材などを見比べるのも一興だ。

「第6回 ひなざり@伊丹郷町館」2/7(土)~3/8(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。無料。☎072-772-8830(文化財保存協会)

変わった名前の年代物

【高木鯉節店】宮ノ前3-7-8 ☎072-770-8188(日・祝休)

大正創業の高木鯉節屋さんの商売道具は50年来愛用の削り機を筆頭にどれも年代もの。じゃこの鱗を取るザルを「みい」、鯉節の大きさをそろえる道具は「とおし」(写真)、細かな鯉節をすくうスコップは「ばんじょう」と呼ばれている。変わった名前も受け継がれているようで「昔からうちではそう呼んでいる。よそは知らんで」と笑う。



季節かたどる和の道具

【中満】宮ノ前3-7-7 ☎072-782-3154(月休)

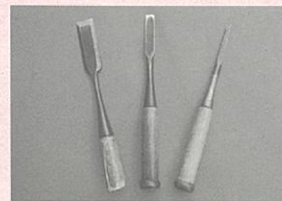
蓮や鯛など季節感を表現する和菓子の世界には、なくてはならない「型」が、昭和6年創業、酒饅頭の老舗に伝わる。写真の「型」は尼崎で修業した父が、四国の行商人から手に入れたもの。「鶴亀」や「老夫婦」といった縁起物もそろそろ。「四季や伝統行事は日本の文化」と店主の大町恒信さんは語る。



職人の身体の一部になるノミ

【水野楽器】宮ノ前2-2-5 ☎072-782-2358(水休)

大正時代に丸太から箒(こと)を作っていた筋金入りの老舗。刃がすっかり短くなったノミや、ツヤを出すのに使う猪の牙などは、先々代から受け継がれる。「もし壊れても、新しいものに買い換えようとは思わない」とは店主の白石英樹さん。手に馴染んだ道具の独特の風合いは職人の体のような。



猪名野神社の参道として、江戸時代から賑わった由緒ある商店街。昭和初期までは近隣に遊郭や芝居小屋もあり、芸者も多く通ったとか。戦後も庶民の生活を支え、親子へと受け継がれてきた商売道具が現代に息づいている。

宮ノ前商店街に
受け継がれる道具たち

五代目桂米團治の襲名記念公演、昔の雛人形展覧会など、歴史を受け継ぐ催しが目白押し。今回から拡大した特集コーナーでは脈々と続く伊丹の人・技・道具をご紹介します。

特集
伊丹で続くよ
どこまでも

取材と文
中脇健児(編集部)
小田垣由紀(市民サポーター)

山下清が遺した
リュックサック

催し
1



「自分の顔」1950年
展覧会初日には、山下清の甥である山下浩さんが語る講演会「家族が語る山下清」も。詳細要問合せ。

「山下清展-放浪の軌跡-放浪の軌跡」美術館・工芸センター。1/10(土)~2/22(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。一般700円、大高生350、中小生100円。☎072-772-7447(美術館)



©清美社

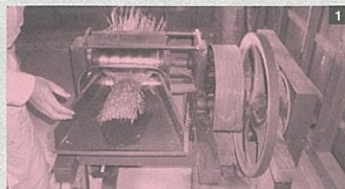
「日本のゴッホ」と山下清が放浪の旅で使っていたリュックサック。まず現存している事に驚く。弟夫婦によって、大切に保管されていたのだとか。本展は貼絵作品はもちろん他の遺品も堂に会する貴重な機会だ。チケットプレゼントあり。詳細はP11

芽接ぎで継ぐ

日本一の花

南京桃

150年以上前から伊丹だけで作り継いできた花桃がある。伝統技術と自然とのせめぎあい成す一品だ。3色咲くよう「芽接ぎ」が行われるが、天候の微妙な働きが成功率を大きく左右する。大道芸の「南京玉すだれ」を連想させる枝ぶりは、水分が少ない炎天下で曲げる事で実現する。時季を判断する目と確かな技術で育てても、枝の本数や長さ、太さを満たすのは15軒の生産農家で年間3000本程度がやっと。「南京桃は世界を見渡しても伊丹でしか作っていない。厳しい基準だけでもみんなできるとは思えない」と伊丹市南京桃ブランド化実行委員会長の阪上寛さんは語る。



- 1 枝曲げに使うワラをほぐす。昔は木ヅチで叩いていたとか。
- 2 葉が茂る初夏から「枝曲げ」をする。木の芯と枝をワラでしばる。
- 3 芽接ぎ、枝曲げと伝統技術が詰まった見事な南京桃がこちら。赤白ピンクの3色が見事。

お問合せ:072-772-3302(JA兵庫六甲)
072-783-6977(スマイル阪神)

パーマ伝えた

伝道師

ヘアオープンジェ シゲ

昔ながらの伝統技法を守り抜く職人から、時代を作った技術の創成期に関わったお店など、元祖な伊丹テクニックをご紹介します。

伊丹伝来の技



- 1 今はデジタル(形状記憶)パーマが主。再現性と持続性に優れている。
- 2 中村しげさん(左)。アメリカの先生からの技術講習時の記念写真。

本店は西台3-2-27.072-772-6765.月休.ショップ
ピンクデパート.みやのまち3号館にも店をかまえる。

パーマ導入に県下で1、2の早さを競ったハイカラな美容室が伊丹にある。大正時代「髪結いさん」であった中村しげさんが宮ノ前商店街に開業した「シゲ美容室」の歴史は伊丹最古。「とにかく好奇心旺盛で新しいもの好きだったみたいですよ」と孫であり代表の中村由美子さんは記憶をたどる。昭和13年に元祖となる電気パーマを紹介し、戦後もコールドパーマをいち早く取り入れた。「戦時中は炭火であってたと聞いてます」とこぼれ話は事欠かない。進歩がめまぐるしい美容業界では当時の技術は残っていないが、「ちょっと待ってね」と奥から取り出してきた肖像写真から、フロンティアの意志がひしひしと伝わってくる。

私、小西家

15代目です。

小西酒造代表取締役
小西新太郎さん



会社を背負い、伊丹を背負う

白雪の銘柄で知られる小西家は、江戸時代から伊丹の自治に尽力し、学校建設や鉄道誘致などまちの発展に貢献してきた。「この土地あつての我々ですから」とあくまでも謙虚な15代目。しかし、就任直後にバブル崩壊、阪神大震災、平成不況と苦難は多かった。「数々の自然災害を乗り越えてきた先祖に畏敬の念を抱きました」と時代を見据える姿勢はさすが。近年、白雪ブランドは世界進出も果たした。伊丹について何うと「空港や酒だけではなく、地元の良い所をうまく活用したい」と抱負もいただきました。社長、ばくらもがんばります。

私、岡田家

24代目です。

柿衛文庫学芸員 岡田麗さん



祖父の意思継ぐ俳句の血筋

日本三大俳諧コレクションと称される柿衛文庫。創設者でもある22代目の岡田利兵衛さんは酒造業を営むかわら、伊丹町長・市長も務め、最初の名誉市民にもなった名士。孫の岡田麗さんは、学芸員として意思を継いで俳諧の普及にいそしんでいる。「俳人鬼貫と交流があった岡田家当主もおり、鬼貫の功績を顕彰するのは代々の想いだっただけです」と明かす。

私、光明寺

20代目です。

住職 齊藤祥行さん



地域に向き合うニュータイプ住職

時は戦国時代。1570年頃、京都の百万遍知恩寺から訪れた高僧が、伊丹の地に建立したのが光明寺。俳人池田宗且も眠る由緒あるお寺を継ぐのは、34歳の若き住職 齊藤祥行さんだ。浄土宗青年会の事務局などでも奔走し、小学生のお寺合宿も企画するアクティブマンは、「地元でもいつか」と昨年二帯の商店組織「伊丹郷町商業会」の理事をつとめる。

僕も3代目やで!

「柿衛文庫」の
由来名の台柿さん



創設者の岡田利兵衛さんの雅号が「柿衛」。江戸時代、漢学者で高名な頼山陽らが、宴で食べ絶賛し、絵や書物に記した事から大切にまもられている。

「古い店? ほならアッコやで」「同級生やから声かけたるわ」と数珠つなぎで情報が集まった今回。「酒造産業で発展したまち」というのは伊丹だけに限らないが、旦那衆や町人文化を育み、文人墨客が集う歴史を作った気取らない気質は確かに現代にも生きています。(編集部:中脇)



昔ながらの伊丹スピリット

【取材と文:中脇健児】事業企画課事業担当 ヒゲ、メガネ、坊主と三拍子揃った本誌編集長。「伊丹オタク」「虫くどきと郷町」など多彩な企画でホールから飛び出す。

財団四季の

芸は身を助く



ESPERANZA SPORTS BOXING GYM

2年前にオープンした伊丹初のボクシングジム。老若男女問わず約130名が通う。プロ目的からダイエットまで幅広く応える。



ストレスと体脂肪を発散させたい

コートに隠れたハミ肉が気になる季節。これは危険！という事でボクシングトレーニングに挑戦です。腰引け気味に覗きましたが、カラフルで爽やかな雰囲気です。

まずバンテージを巻かせてもらうだけで肉食獣な私、血が騒ぎます。ここから連載史上最もハードなメニュースタート。ストレッチからシャドーボクシング、ミット打ち、サンドバッグなど3分(1R)やって30秒休憩のインターバルで60分間、澁みなく進みます。髪を伝う汗を眺める内に無意識に顎は上がり、脇が開き、KO寸前の姿に。やるのと見るのじゃ大違い。TVの前で選手にダメ出しなんて二度と致しません！

良い音のパンチが繰り出せた瞬間は、床から腰、腕へと力の波が猛スピードで通り抜けるのですが、腕だけに頼ったり、腹筋が緩むと、力が逆戻りして手が痺れてしまいます。その感覚の差が面白く、体との対話に夢中になります。

「楽しむ事を大切にしている」という会長の橋本隆志さん。とにかく褒め上手。ノセられるまま打ち込む内、目つきも野性化してとても人様にお見せできない顔に…。疲労感でさえ爽快に思えるのは正に会長マジックです！

「ハードバンチャーだね」と褒められご嫌嫌で職場に戻った私を待っていたのは、手が震えて鉛筆持つのも一苦労という試練でした。

【教室案内】
月会員、デイトム、週一など様々なコースがある。会費・入会金・内容は要問合せ。取材と同じ一日体験は2,000円。平日14:00~22:00、土曜13:00~21:00。日祝休(イレギュラーの休みあり)。
電話072-772-9300。
<http://www.esperanza.ne.jp>



インテリアのようにカワイクかかるヘッドギアとグローブたち。



予想以上に重い！ 打つタイミングが難しいのです。

まちなか美術手帖
【三軒寺前広場×建畠覚造】

学芸員が美術館から飛び出し、伊丹のまちなかにたえずアート作品を紹介。普段何げなく見ていたものが実はすごい作品だったんです。

三軒寺前広場の中心で日差しを受け、銀色の輝きを放ちながらユラユラと波立つ彫刻「WAVING FIGURE」。

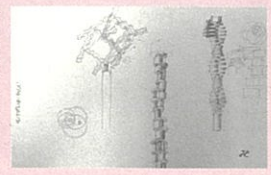
1988年、彫刻家・建畠覚造による作は波形に切り抜いた合板を張り合わせたステンレス製で、黒御影石の台座に乗り、6メートル以上の高さがある。広場は阪急伊丹駅とJR伊丹駅を結び、様々な店が軒を連ねる通りにあるため、人の流れが絶えることはない。そこで彫刻設置にあたり国内外の作家候補から選ばれた建畠に「出会い」というテーマが与えられた。構想デザイン画に多様な形を描いたが、最終的には自身が10年以上取り組んできたテーマ、「無限と連続」を表す波形を選んだ。

湾曲する鏡のような表面には景色や通りがかる人々が歪んで映り、

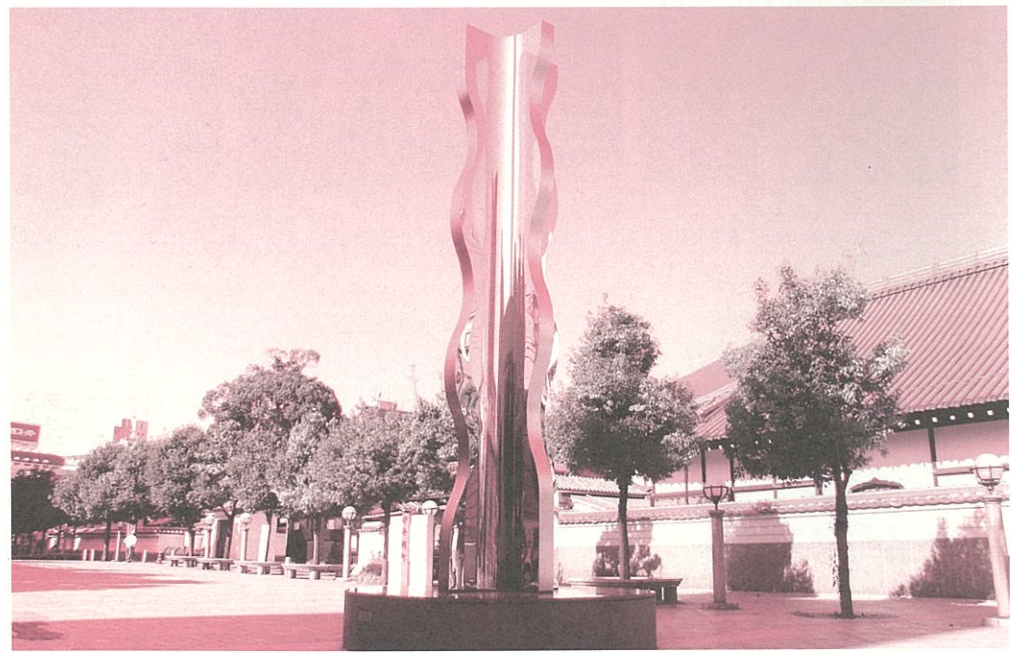
行き交う人々に波立つ彫刻

建畠覚造 (1919-2006)

抽象彫刻のバイオニアであり文化功労者。父は具象彫刻家の建畠大夢。作風は常に変貌を遂げ、金属や木、合成樹脂など多彩な素材を用いて有機的な抽象形態を造った。



構想段階の実現されなかった形が描かれたデザイン画(美術館蔵)



糸から紡ぐ究極の ハンドメイド

寒い冬になると大活躍するマフラーやセーター。そんな羊毛作品の中でもふんわりと空気をたくさん含んだ手紡ぎを中心に制作している伊東徹子さんを訪ねてきました。

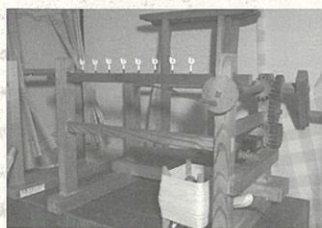
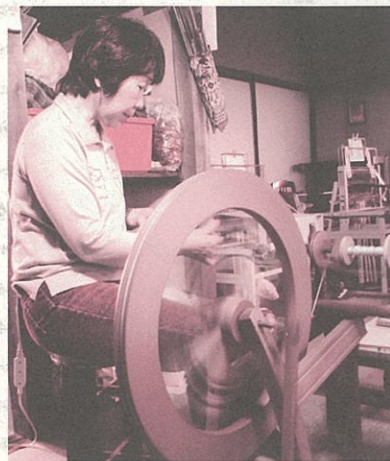
羊毛を紡ぐことから手織りまで全工程を一人で手がけるホームスパンという技法です。

昔から編み物などの手仕事好きで、お姉さんが染織をしている影響もあり、毛織物を使った洋服を多く作っていた伊東さん。市販の毛糸では色や風合いが自分の作品にあわないなど感じていた時、手紡ぎに出会いました。「仕事場が自宅も兼ねているという事ですが、羊毛を洗うことから始まり、染めや紡ぎ、織りまで行うため、家中が作業場みたいなもの。ストックされた毛糸やスペースをとる紡毛機に織機という場所の問題にくわえ、すべて手作業となればかかる時間も膨大なはずですが、でも「大変だとは全く思わな

クラフト作家の仕事を訪ねて

◎ホームスパン作家の伊東徹子さん

【右上】所せましと機械が並ぶ。



【中央・左上】羊毛を指でよりながら紡毛機で紡ぐ。
【右下】紡いだ糸を糸の輪にする「総揚げかせあげ」という道具。

工芸センターでは、手織のほか、陶芸や版画、彫金など様々な講座を開催しています。また年間を通してプロのジュエリー作家を育成する「伊丹ジュエリーカレッジ」も。いずれも見学可。詳細は工芸センター（072-772-5557）まで。

い。むしろ一つ一つの手作業からイメージがどんどん浮かんでくるのが楽しい」とにこやかに語るように、いつも図案を作らずに取り組むそう。ある日の夕焼けをモチーフにしたドレスなど、複雑な色彩やシルエツトも頭の中にあるとは驚きです。「将来は工房を建て直す予定。作品がたくさん並んだ中で趣味として続けているピアノや音楽をみながら楽しめる、大人の遊び場になりたい」と夢もまだまだ膨らんでいるようです。



伊東 徹子（いとてつこ）
伊丹生まれ。阪急新伊丹駅近くにある自宅兼工房では手織教室を開催。また年に1回、工芸センターにてホームスパン講座も。

【取材と文：澤野宏美】伊丹市立工芸センター所属「伊丹郷町クラフトショップ」を拠点に全国各地の作家とつながる。現在は伊丹国際クラフト展と手織や陶芸などの講座を担当。「職場と自宅で大胆な模様替え。掃除が趣味になりつつあります」

感動の余韻を楽しませてくれるお酒と料理がちやんとありました。

終演後の一軒 A DOOR AFTER THE SHOW

2/18(水)19:00 □会場:アイホール

アイホールダンスコレクションvol.56

ピーピング・トム「ル・ス・ソル(Le Sous Sol)／土の下」

ベルギー最新鋭のダンスが初上陸



物語の舞台は、埋葬された死者が行き交う地下室。アイホールのステージが大量の土砂で埋めつくされます。ダンサー陣に加え、オペラ歌手や老婆、地域の高齢者も出演。光と闇、人間の本質に迫るスケールの大きな舞台にご注目。

●一般:4,500円、学生&ユース(25歳以下):3,000円。

●問合せ先072-782-2000

100を超える レトルトカレーと缶詰の壁

男は転げまわり、女は髪を振り乱し、おばあさんはディーブキスをしながらくるくと舞い、オペラ歌手はメゾソプラノを響かせる。すべて泥まみれで。

総容積8000リットルで床を覆う土の迫力や、ジャンルも年代も異なるアーティストたちの多種多様な表現に大興奮したなら、壁一面が缶詰とレトルトカレーに覆われているバー「WADO(ワドウ)」へと向かう終演後の一軒。コンクリートむき出しの壁に、100種類を超えるレトルトカレーと缶詰が立ち並ぶほか、焼酎、果実酒、外国産ビールも豊富にそろう。「どのジャンルでも「この店が一番」と言われたい」と言うオーナーの安原さんがそろえた「コレクション」は圧巻だ。

まずは、ピーピング・トムの拠点ベルギー産のビール「ニユートン」で乾杯。青りんごの香りをのどに通したら、カレーの箱を上か

ら眺め尽くす。ビールに合わせてフルーツ系の「白桃カレー」にするか、土が印象的だった公演にふさわしく農家の人が畑に並ぶパッケージ「練馬野菜カレー」という変化球もありか。缶詰や焼酎の山も気になりながら、極彩色のパッケージの数々に興奮するのも面白い。



WADO(ワドウ)
中央1丁目2-5
TEL:072-775-2205
無休
11:30~5:00(翌朝)



タコライス(700円)が昼・夜通して人気。ランチはハンバーグ(700円)や日替わり定食(600円)など。大阪で店を構える餃子(400円)など居酒屋定番メニューも豊富。

【取材と文：富村賢治】いたみホール所属 アートプロジェクトのオモシロさにみせられ、日々商店街やまちなかをぶらつく。「横浜と千葉で展覧会「ヨコトリ(横浜トリエンナーレ)」と「チハトリ」を。伊丹でやるなら「イタミトリ」だぞと思、夜は居酒屋で鳥のから揚げを食べました」



3・15(日) ヒマラヤ山麓の国ブータンから

ヒマラヤ山脈の東端に位置するブータンは、多様な自然環境のもと、独自の文化を育んできた仏教国。本公演ではツェチュ等のお祭りや演じられる、華麗な仏教絵巻ながらの仮面舞踊ほか、同国各地に伝わる音楽と踊りをご紹介します。

【伊丹アイフォニックホール】



出演:ブータン伝統芸能団「ツェチュ・ダン」

アイフォニック地球音楽シリーズ140「歌い、踊るパロ谷の春」3/15(日)14:00。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)。1/17(日)発売。072-780-2110

3・29(日) 第23回伊丹市民オペラ 「椿姫」

毎年オペラの春風をお送りしております。伊丹市民オペラ公演。第23回を迎えた今年は、美しくも儚く散った女性が主人公の歌劇「椿姫」をお届けします。豪華フランス社交界の華やかさと真実の愛に生きた女性の儚さをご堪能ください。

【いたみホール】



【第23回伊丹市民オペラ定期公演「椿姫」】3/29(日)14:00。一般3,500円(当日500円増)。072-780-2110(伊丹アイフォニックホール)

3・7(土)~3・22(日) 伊丹市ゆかりの芸術家による展覧会

伊丹市にゆかりのある様々なジャンルの芸術家により結成された「伊丹市芸術家協会」。絵画、彫刻、工芸、書、写真など、会員による作品展を開催いたします。バラエティ豊かな作品をぜひお楽しみください!

【美術館】



「伊丹市芸術家協会展」3/7(土)~3/22(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。無料。072-772-7447

3・28(土)・29(日) 熱演! 市内演劇部、春の本場所!!

伊丹市内の中学高校演劇部が、自信作を持ち寄り開催するフェスティバル。劇場の機材や装置をフルに使い、じっくりと時間をかけて上演される作品の数々は、プロ顔負けの出来ばえです。1年間の活動の集大成。演劇の未来がここにある!!

【アイホール】



昨年度公演より

「アイフェス!! 2009(AI・HALL中学高校演劇フェスティバル2009)」3/28(土)~29(日)。無料。072-282-2000

※イベントにより、未就学児童の入場の制限等がある場合がございます。詳細は各ホールへお問合せ下さい。※いたみホール、アイホール、ラスタホールは火曜日休館。伊丹アイフォニックホールは水曜日休館。美術館、工芸センター、伊丹郷町館、柿衛文庫は月曜日休館。(祝日にあたる時は翌日)

アイテム

2009年1月1日発行(季刊冬号・通巻59号) 発行:(財)伊丹市文化振興財団 編集:アイテム編集委員会 表紙イラスト:ニシワキタダシ デザイン:三澤敏博(絡線堂) 〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-1-3 伊丹市立文化会館「いたみホール」内 Tel.072-778-8788 Fax.072-778-8585 http://hccweb1.bai.ne.jp/itamihall/zaidan Email->itamihall@hcc1.bai.ne.jp



<配布場所>市内・近隣の文化施設でお取りいただける他、こんなところでは配布協力いただいています。アリオ1&2、伊丹酒蔵通り、東商店街、タミータウン、宮ノ前商店街、ビバ伊丹、三軒寺前広場周辺のお店、伊丹シティホテルほか市内各所

市立宮ノ前地下有料駐車場ゾーンのご案内 伊丹アイフォニックホール B・Cゾーン いたみホール A・Fゾーン みやのまえ文化の郷 Cゾーン

チケットプレゼント

- ①「山下清展・放浪の軌跡」1/10(土)~2/22(日)(美術館)5組10名。1月31日必着。 ②「アイフォニック地球音楽シリーズ140 歌い、踊るパロ谷の春」3/15(日)14:00。(伊丹アイフォニックホール)2組4名。2月15日必着。

1・22(木) ジャンルを超えたピアニスト集結

今話題の異色のピアノトリオが、早くも関西へ初上陸! ステージには、3人のピアニストと3台のスタインウェイ。ソロあり、デュオあり、ジョイントあり...何が飛び出すかわからない、彼らならではの「極上のエンターテインメント」をぜひ。

【いたみホール】



「稲本響/アキコ・グレース/ピアニスターHIROSHI Piano×Piano×Piano ピアノキューブ'08-'09」1/22(木)19:00。5,000円(当日500円増)。072-778-8788

2・8(日) 話題作を朗読劇で

日本語の美しさを大切に、群読の響きの素晴らしさと朗読の可能性を追求する「あめんぼ座」。今回は、話題の人気絵本「あらしのよるに」シリーズから第1作と第2作、そして井上ひさしの連作短編集「十二人の手紙」より「赤い手」を上演。

【ラスタホール】



「あらしのよるに・あるはれたひに・赤い手」2/8(日)14:00。一般1,200円、高校生以下・60歳以上1,000円(当日各200円増) 072-781-8877

2・26(木) 何も言えなくて...夏

近年、90年代前半のヒット曲を集めたCDアルバムなどで、にわかに注目を集めるJAYWALK。待望の伊丹公演がついに実現する。「何も言えなくて...夏」をはじめ数々のヒット曲を聴けば、あまざっぱい青春がぎつとよみがえるはず。

【いたみホール】



「JAYWALK CONCERT TOUR 2009 一もう一度...」2/26(木)19:00。6,000円(当日500円増)。072-778-8788

3・6(金)~3・8(日) 松田正隆が「父」の物語に挑む

映画化された「紙屋悦子の青春」などで知られ、近年は実験的な舞台作品の創作に取り組む松田正隆が、シェイクスピアの『ハムレット』、カフカの『父への手紙』、そして自身の実父への映像取材をもとに、現代の「父権」を問う新作を発表します。

【アイホール】



マレトの会「Voiceprints City-Letter to FATHER/声紋都市-父への手紙」3/6(金)19:30/3/7(土)15:00/3/8(日)15:00。一般3,000円(当日300円増)、ユース(25歳未満)2,000円(当日500円増)。072-782-2000

1・10(土)~2・22(日) 芭蕉・蕪村らの直筆せいぞろい

芭蕉、西鶴、鬼貫、蕪村、そして子規、虚子、漱石...教科書でおなじみの俳人たちの直筆がせいぞろい。所蔵品のなかから選ばれた名品を紹介します。一つとして同じものがない筆蹟と句や絵の織りなす世界を心ゆくまでお楽しみください。

【柿衛文庫】



「小企画展 柿衛文庫名品散歩」1/10(土)~2/22(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。一般200円、大高生100円、中小生50円。072-782-0244

1月下旬~2月 ラスタ登録団体、晴れの舞台

ラスタホール登録団体が日頃の活動の成果を発表する「ラスタ生涯学習フェスティバル」。各団体がステージ発表や作品展示で力作を発表します。体験講習会を行う団体もありますので、ぜひこの機会に各団体の活動内容に触れてみてください。

【ラスタホール】



「ラスタ生涯学習フェスティバル」1月下旬より2月にかけて複数開催。展示会、ステージ発表、体験講習会など各種開催。詳細要問合せ。072-781-8877

2・21(土) 総勢40名! 熱狂のマジャール魂

中央アジアのマジャール人に起源を持つというハンガリーの人々。今回は、20名の男性ダンサーと12名の女性ダンサーが、華麗に、勇壮に、その雄姿を舞い交わします。輪舞するチャールダーシュ、跳躍するレゲーニェシュ...熱狂のダンスにご期待ください。

【伊丹アイフォニックホール】



出演:ハンガリー国立ホンヴェード民俗音楽舞踊団

アイフォニック地球音楽シリーズ139「華麗に、勇壮に、舞い交わすハンガリーの男たち」2/21(土)14:00。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)。072-780-2110

3・4(水)~3・29(日) 女性作家による漆の衣食住

漆で初の博士号を取った沈明姫(しみょうひ)、漆+染織を完成させた中嶋紫部、漆を七宝の表面に塗る「うるしぼう」を開発した長谷川淑子。3人の女性作家らが、器・衣服・照明器具・アクセサリなどに漆を取り入れた生活を提案いたします。

【工芸センター】



作:沈明姫

「3人の女性作家による 漆の衣食住展」3/4(水)~3/29(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。無料。072-772-5557